

みちのく潮風トレイル岩手エリアアンケート調査結果概要

公益財団法人さんりく基金 三陸DMOセンター

1 概要

【目的】

情報発信や受入態勢の強化を図るため、来訪者の属性や動向、受入態勢に関するニーズなどのデータを収集するため実施するもの。

【期間】

令和6年7月末～

【回答方法】

沿岸地域の観光施設等約60か所に設置した二次元コードを読み取り、Googleフォームからアンケートに回答。

【対応言語】

日本語、英語、繁体字、簡体字、韓国語

2 結果

(1) 日本語回答

- ・居住地は、岩手県内が約4割、東北地方全体で7割程度を占める。
- ・年齢層は40～60代が全体の7割程度を占める。
- ・トレイル歴は1年以内と回答した人が4割を超えている。
- ・日帰り客が4割近くを占めている。
- ・看板、サインやトイレの案内などについては4割近くがわかりにくいと回答。
- ・歩いていて困ったことについては、道に迷いやすい、標識やテープがわかりにくいと回答した人が多かったほか、トイレの数や交通アクセスに関することについても回答が多い。

✓岩手県内在住でトレイル歴が1年未満の人が多くことから、みちのく潮風トレイルの盛り上がりを受けて歩き始めた人が多く、結果として初心者の割合が高くなり、看板やサイン等へ不安を感じる人が多くなっていることが考えられる。

✓日帰り客が多くなっているが、岩手県内陸部の人が多いのか、沿岸部の人が多いのかは不明。

2 結果

(2) 英語回答

- ・居住地は、オセアニア、欧米が中心となっている。
- ・年齢層は30代が半数を占めている。
- ・トレイル歴は6年以上と回答した人が6割を超えている。
- ・宿泊施設への宿泊数が6泊以上が4割を占めている。
- ・看板、サインやトイレの案内などについては9割以上がわかりやすいと回答。
- ・歩いていて困ったことについては、特になしと回答した人が最も多かった。

✓外国人はトレイル歴6年以上の人が多く、トレイルを歩くための準備を含め、歩き慣れている人が多いことから案内等に不安を感じる人が少なかったと考えられる。

✓困ったことに関しては、ルート計画やテントサイトの情報など、旅程を検討するにあたっての情報に対するコメントや、ヴィーガン対応のメニューに関するものが挙げられた。